

## 第2章

集計結果に基づくビジョンに  
関連した分析結果



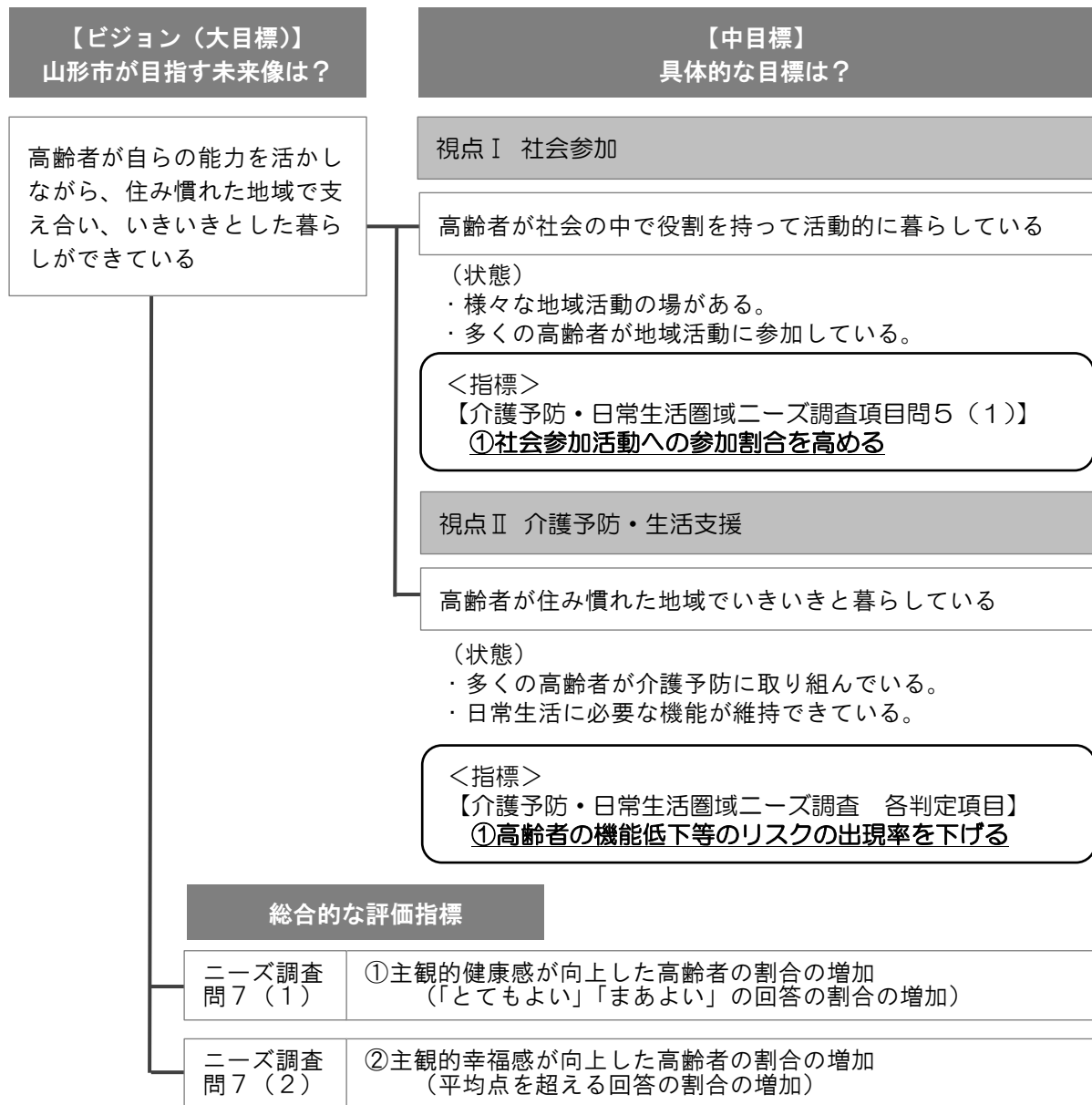
## 第2章 集計結果に基づくビジョンに関連した分析結果

第2章は、本市が設定するビジョンの達成に関連した指標を導き出すため、調査の集計結果をもとに、 $\chi^2$ （カイ二乗）検定<sup>※1</sup>を用いて分析を行いました。

ビジョンは、「一般高齢者等」と「要介護者等」の2つに分けて大目標を設定し、さらに、高齢者の状態や立場による視点ごとに中目標を設定しています。また、大目標・中目標には、その達成状況を示す指標を設定しています。

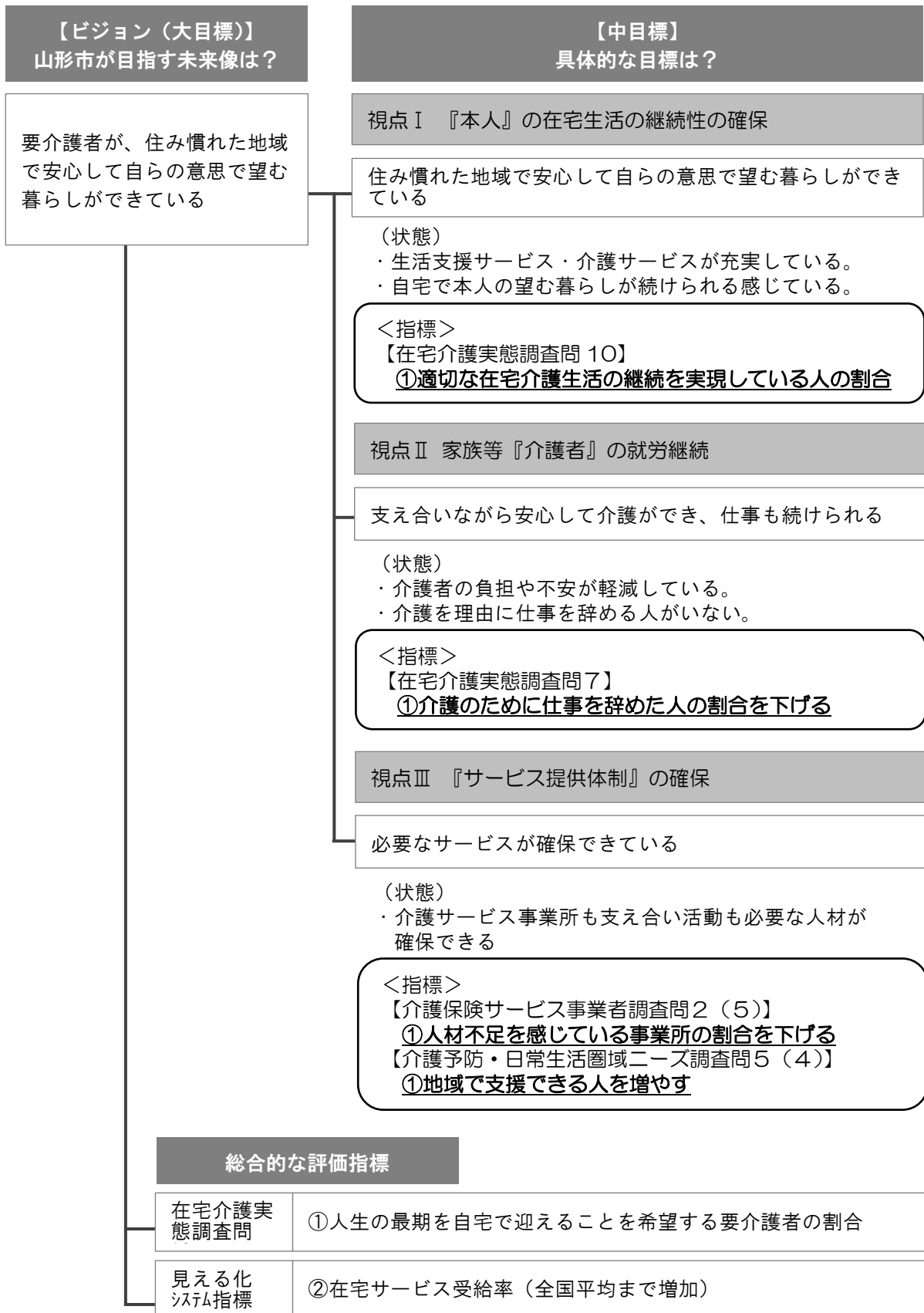
分析結果は、大目標・中目標に設定した指標を効果的・効率的に達成するための取組（小目標）の設定に用います。

図2.1 一般高齢者等のビジョン



※1  $\chi^2$ （カイ二乗）検定とは、帰無仮説が正しい場合の検定統計量が漸近的にカイ二乗分布に従うような統計的検定法の総称。2つの独立した変数に有意差がみられない「帰無仮説」とそれに対立する「対立仮説」を設定し、帰無仮説の元で検定統計量とその値となる確率p値を求め、p値が有意水準とされる0.05以下の場合、帰無仮説を偽として棄却し、対立仮説が採択される。

図2.2 要介護者等のビジョン



※本章における図表見出しの設問番号については、「高齢者の健康と生活状況調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）」の設問番号は『問 1』、「高齢者の生活と介護者の就労状況調査（在宅介護実態調査）」の設問番号は『問 1』のように表記しています。

# 1 一般高齢者等のビジョンに関連した分析

## (1) 社会参加

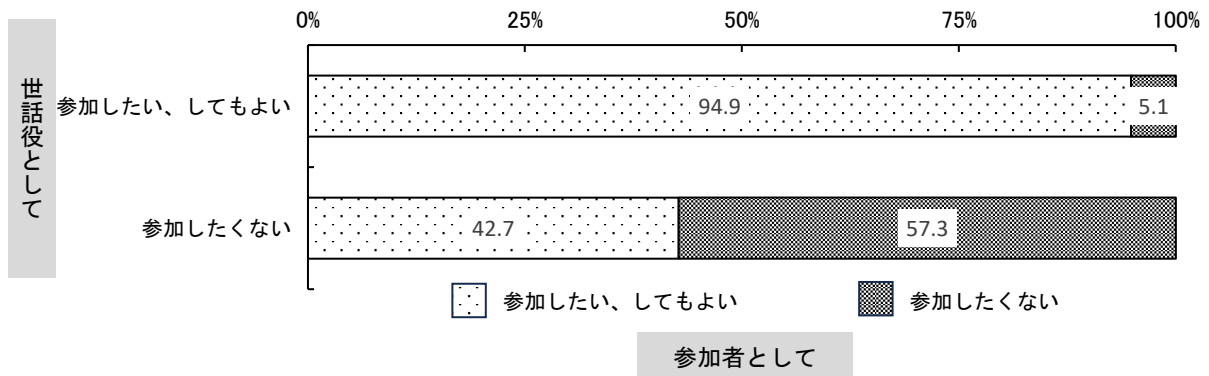
○世話役としての社会参加意向と参加者としての社会参加意向の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、世話役として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、参加者として「参加したい、参加してもよい」割合が高くなっています。

表2.1 問5-(3) 世話役としての社会参加意向×問5-(2) 参加者としての社会参加意向の分割表

		参加者として		
		参加したい、してもよい	参加したくない	合計
世話役として	参加したい、してもよい	2,600	141	2,741
	期待値	1,682.2	1,058.8	
	参加したくない	2,101	2,818	4,919
	期待値	3,018.8	1,900.2	
	合計	4,701	2,959	7,660

p 値=0.000

図2.3 問5-(3) 世話役としての社会参加意向×問5-(2) 参加者としての社会参加意向



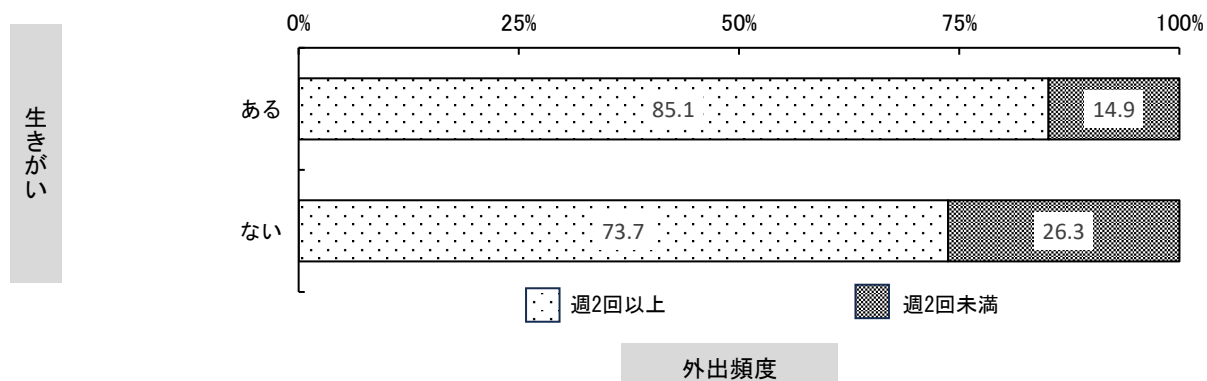
○生きがいの有無と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、生きがいがあるグループは、「思いつかない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.2 問4(18) 生きがいの有無×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
生きがい	ある	4,821	841	5,662
	期待値	4,588.2	1,073.8	
	ない	2,349	837	3,186
	期待値	2,581.8	604.2	
	合計	7,170	1,678	8,848

p 値=0.000

図2.4 問4(18) 生きがいの有無×問2(6) 外出頻度



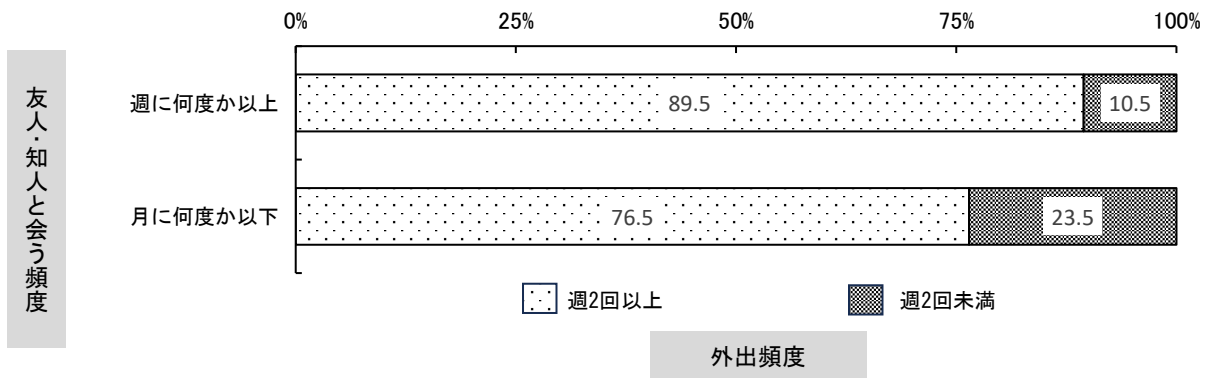
○友人・知人と会う頻度と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、友人・知人と会う頻度が「週に何度か以上」のグループは、「月に何度か以下」のグループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.3 問6(6) 友人・知人と会う頻度×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
友人・知人と 会う頻度	週に何度か以上	2,795	329	3,124
	期待値	2,528.3	595.7	
	月に何度か以下	4,573	1,407	5,980
	期待値	4,839.7	1,140.3	
	合計	7,368	1,736	9,104

p 値=0.000

図2.5 問6(6) 友人・知人と会う頻度×問2(6) 外出頻度



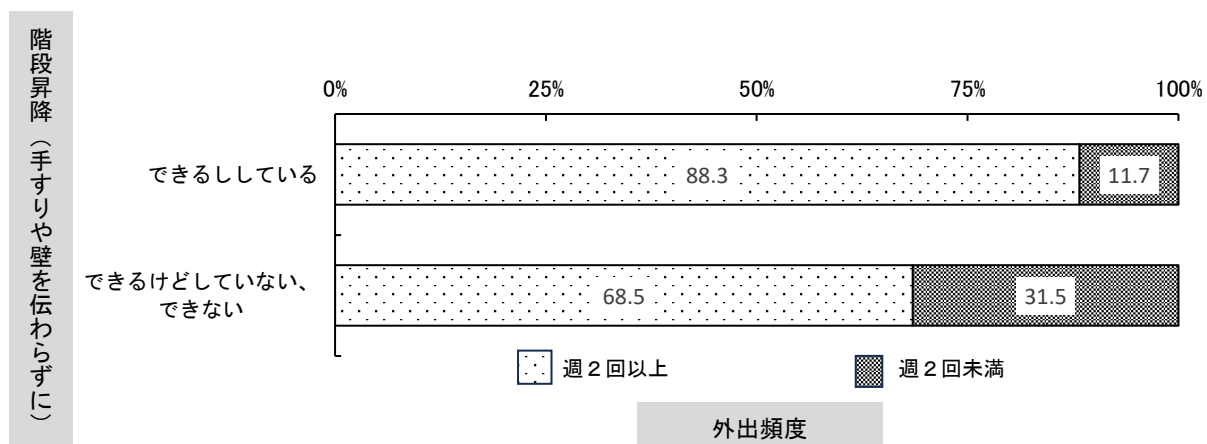
○階段昇降と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.4 問2(1) 階段昇降×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
階段昇降 (手すりや壁を伝 わらずに)	できるししている	5,055	671	5,726
	期待値	4,626.1	1,099.9	
	できるけどしていない、 できない	2,394	1,100	3,494
	期待値	2,822.9	671.1	
合計		7,449	1,771	9,220

p 値=0.000

図2.6 問2(1) 階段昇降×問2(6) 外出頻度





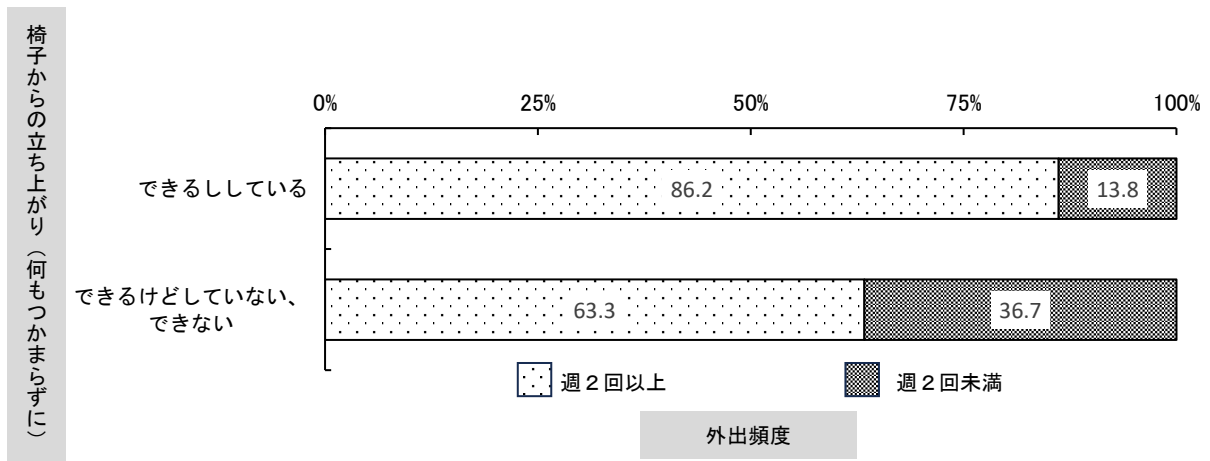
○椅子からの立ち上がりと外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、椅子からの立ち上がりが「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.5 問2(2) 椅子からの立ち上がり×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
椅子からの立ち上がり(何もつかまらずに)	できるししている	6,104	979	7,083
	期待値	5,726.7	1,356.3	
	できるけどしていない、できない	1,365	790	2,155
	期待値	1,742.3	412.7	
	合計	7,469	1,769	9,238

p 値=0.000

図2.7 問2(2) 椅子からの立ち上がり×問2(6) 外出頻度



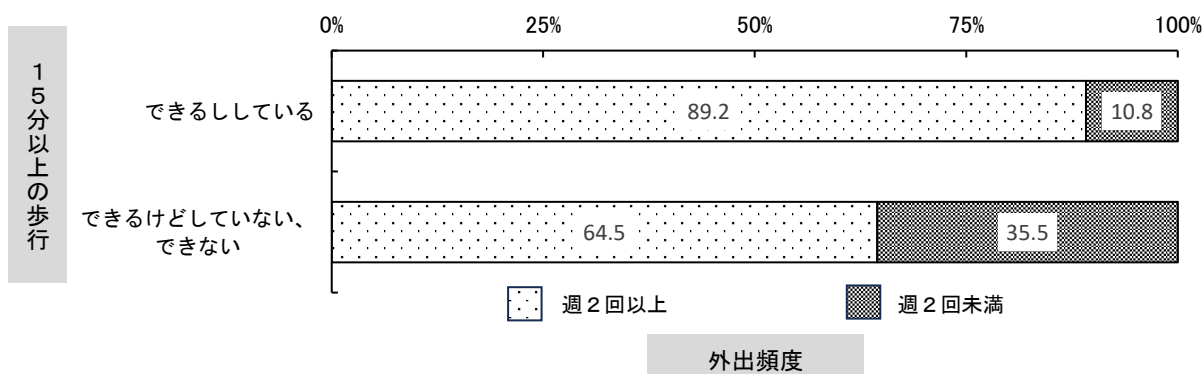
○15分以上の歩行と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.6 問2(3) 15分以上の歩行×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,458	664	6,122
	期待値	4,946.3	1,175.7	
	できるけどしていない、できない	2,022	1,114	3,136
	期待値	2,533.7	602.3	
	合計	7,480	1,778	9,258

p 値=0.000

図2.8 問2(3) 15分以上の歩行×問2(6) 外出頻度



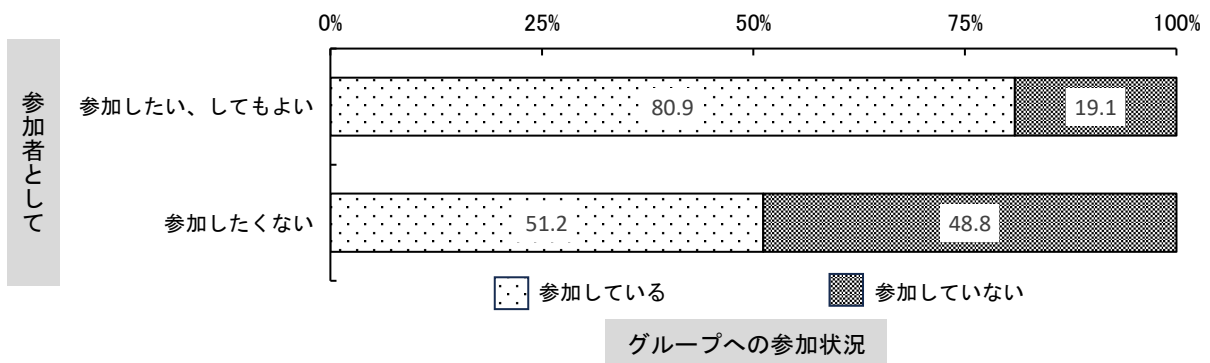
○参加者としての社会参加意向とグループへの参加状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、参加者として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、グループへの参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.7 問5-(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1) グループへの参加状況の分割表

		グループへの参加状況		
		参加している	参加していない	合計
参加者として	参加したい、してもよい	4,012	947	4,959
	期待値	3,470.5	1,488.5	
	参加したくない	1,474	1,406	2,880
	期待値	2,015.5	864.5	
	合計	5,486	2,353	7,839

p 値=0.000

図2.9 問5-(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1) グループへの参加状況



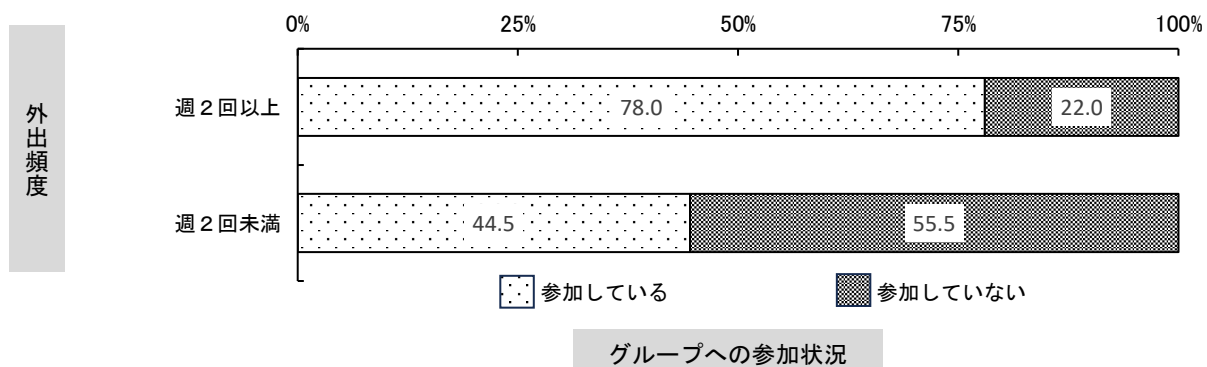
○外出頻度とグループへの参加状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、外出頻度が「週2回以上」のグループは、「週2回未満」のグループより、グループへの参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.8 問2(6) 外出頻度×問5(1) グループへの参加状況の分割表

		グループへの参加状況		
		参加している	参加していない	合計
外出頻度	週2回以上	5,478	1,543	7,021
	期待値	5,049.8	1,971.2	
	週2回未満	696	867	1,563
	期待値	1,124.2	438.8	
	合計	6,174	2,410	8,584

p 値=0.000

図2.10 問2(6) 外出頻度×問5(1) グループへの参加状況



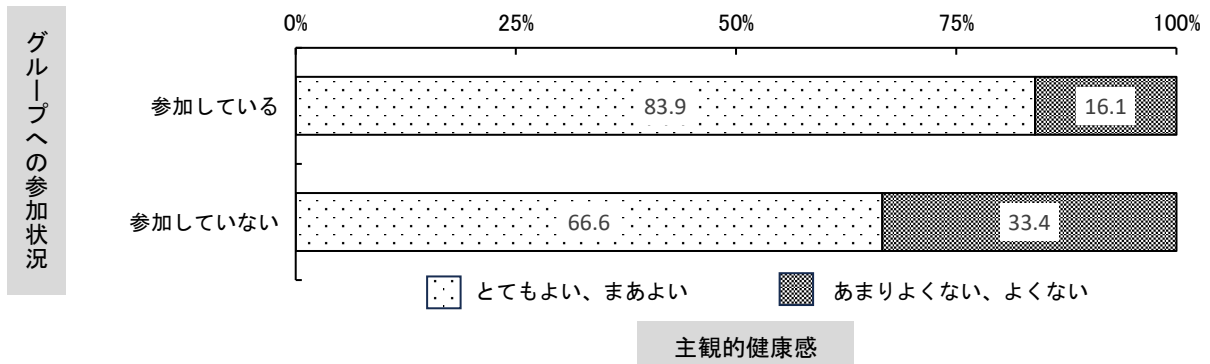
○グループへの参加状況と主観的健康感の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、グループへの参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、主観的健康感で「とてもよい、まあよい」の割合が高くなっています。

表2.9 問5(1) グループへの参加状況×問7(1) 主観的健康感の分割表

		主観的健康感		
		とてもよい、まあよい	あまりよくない、よくない	合計
グループへの参加状況	参加している	5,145	984	6,129
	期待値	4,846.7	1,282.3	
	参加していない	1,594	799	2,393
	期待値	1,892.3	500.7	
	合計	6,739	1,783	8,522

p 値=0.000

図2.11 問5(1) グループへの参加状況×問7(1) 主観的健康感



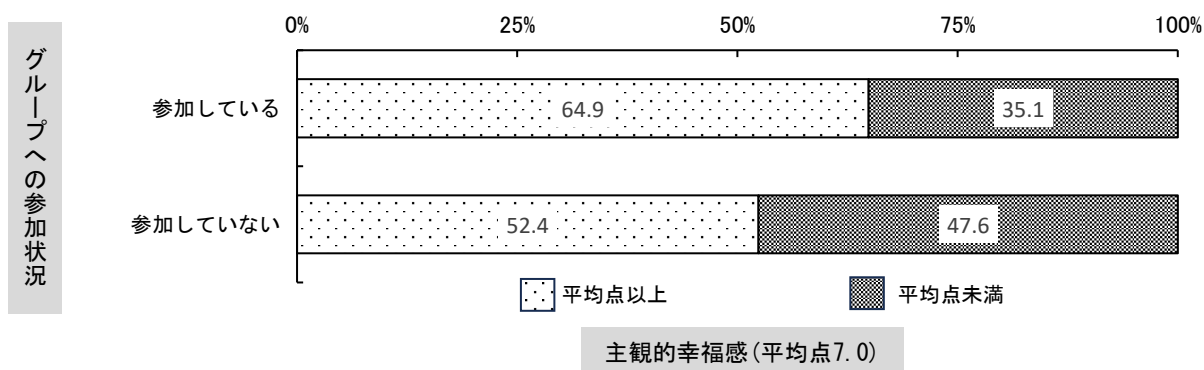
○グループへの参加状況と主観的幸福感の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、グループへの参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、主観的幸福感で「平均点 (7.0 点) 以上」の割合が高くなっています。

表2.10 問5(1) グループへの参加状況×問7(2) 主観的幸福感の分割表

		主観的幸福感 (平均点 7.0 点)		
		平均点以上	平均点未満	合計
グループへの参加状況	参加している	3,954	2,137	6,091
	期待値	3,742.3	2,348.7	
	参加していない	1,229	1,116	2,345
	期待値	1,440.7	904.3	
	合計	5,183	3,253	8,436

p 値=0.000

図2.12 問5(1) グループへの参加状況×問7(2) 主観的幸福感



(2) 介護予防、生活支援

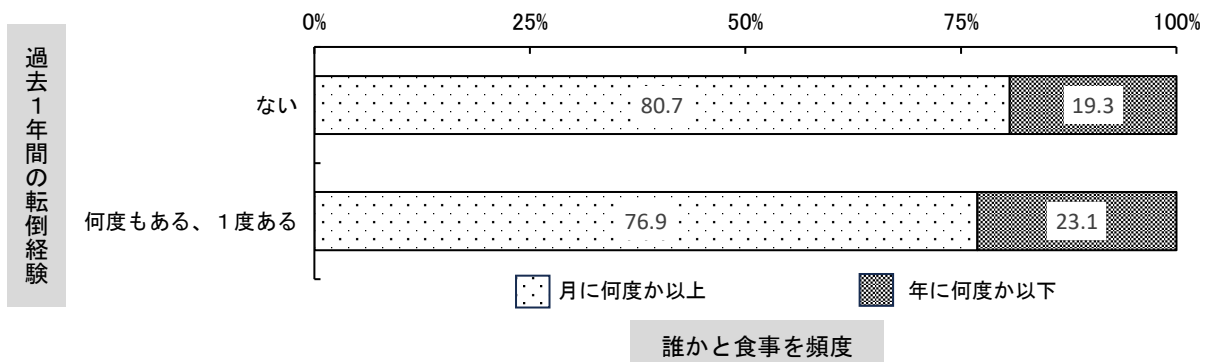
○転倒経験の有無と誰かと食事をする頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、過去1年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1度ある」グループより、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」の割合が高くなっています。

表2.11 問2(4) 転倒経験の有無×問3(8) 誰かと食事をする頻度の分割表

		だれかと食事を頻度		
		月に何度か以上	年に何度か以下	合計
過去1年間の転倒経験の	ない	5,000	1,198	6,198
	期待値	4,924.4	1,273.6	
	何度もある、1度ある	2,296	689	2,985
	期待値	2,371.6	613.4	
	合計	7,296	1,887	9,183

p 値=0.000

図2.13 問2(4) 転倒経験の有無×問3(8) 誰かと食事をする頻度



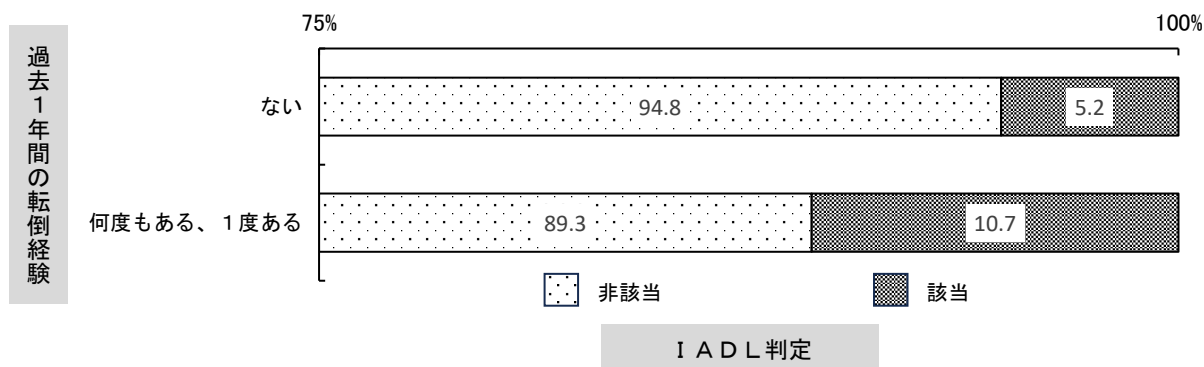
○転倒経験の有無と I A D L 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、過去 1 年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1 度ある」グループより、I A D L 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.12 問2(4) 転倒経験の有無×IADL判定の分割表

		I A D L 判定		
		非該当	該当	合計
過去 転倒 1年 間の 経験 の	ない	5,887	320	6,207
	期待値	5,775.5	431.5	
	何度もある、1度ある	2,680	320	3,000
	期待値	2,791.5	208.5	
	合計	8,567	640	9,207

p 値=0.000

図2.14 問2(4) 転倒経験の有無×IADL判定





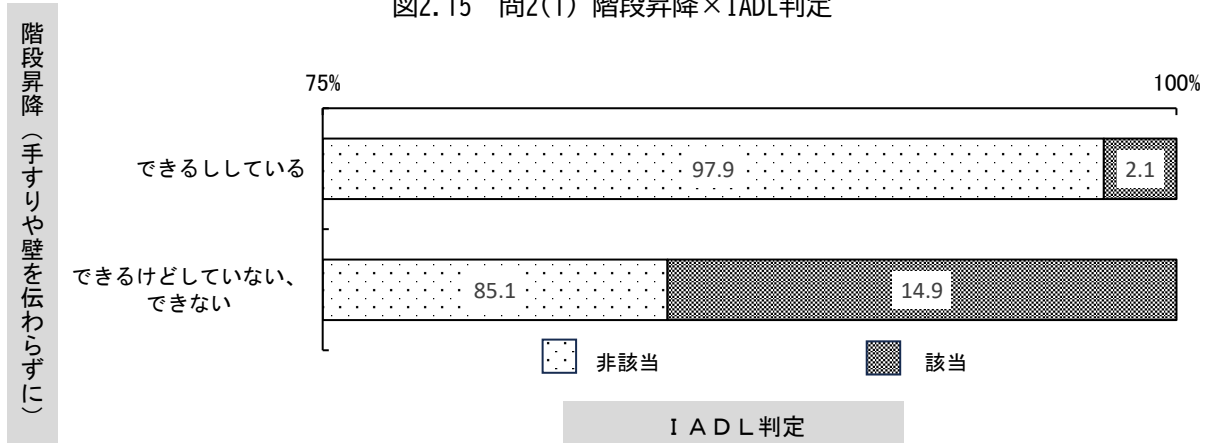
○階段昇降とIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.13 問2(1) 階段昇降×IADL判定の分割表

		IADL判定		
		非該当	該当	合計
階段昇降 (手すりや壁を 伝わらずに)	できるししている	5,533	120	5,653
	期待値	5,258.6	394.4	
	できるけどしていない、 できない	2,946	516	3,462
	期待値	3,220.4	241.6	
合計		8,479	636	9,115

p値=0.000

図2.15 問2(1) 階段昇降×IADL判定



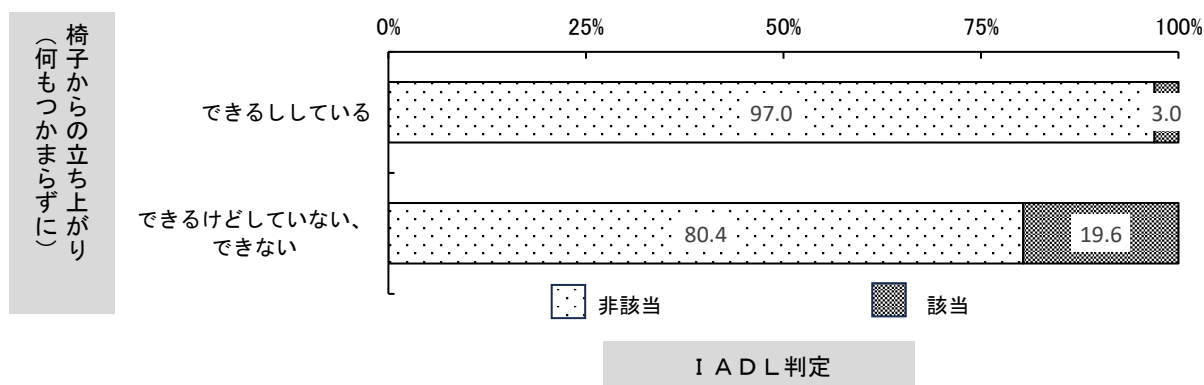
○椅子からの立ち上がりとIADL判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、椅子からの立ち上りを「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.14 問2(2) 椅子からの立ち上がり×IADL判定の分割表

		IADL判定		
		非該当	該当	合計
椅子からの立ち上がり (何もつかまらずに)	できるししている	6,795	212	7,007
	期待値	6,524.4	482.6	
	できるけどしていない、 できない	1,708	417	2,125
	期待値	1,978.6	146.4	
合計		8,503	629	9,132

p値=0.000

図2.16 問2(2) 椅子からの立ち上がり×IADL判定



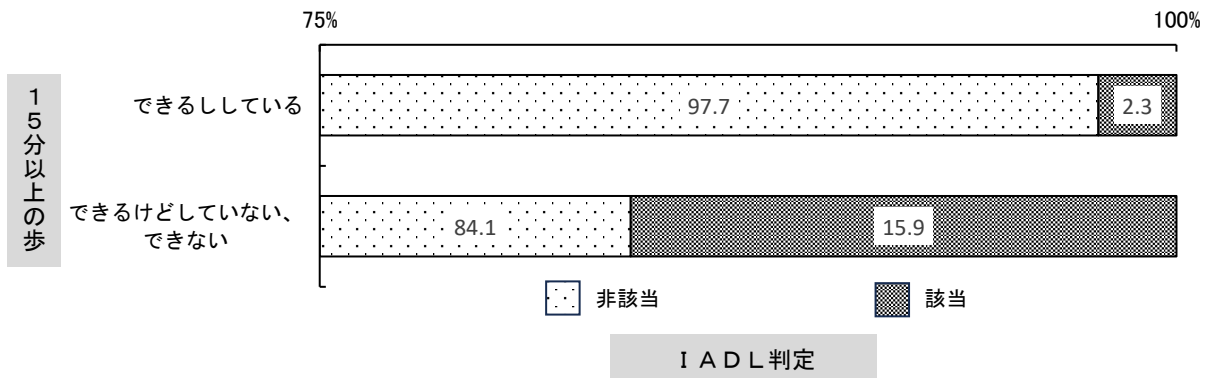
○15分以上の歩行とIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.15 問2(3) 15分以上の歩行×IADL判定の分割表

		IADL判定		
		非該当	該当	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,912	138	6,050
	期待値	5,632.3	417.7	
	できるけどしていない、できない	2,609	494	3,103
	期待値	2,888.7	214.3	
	合計	8,521	632	9,153

p値=0.000

図2.17 問2(3) 15分以上の歩行×IADL判定



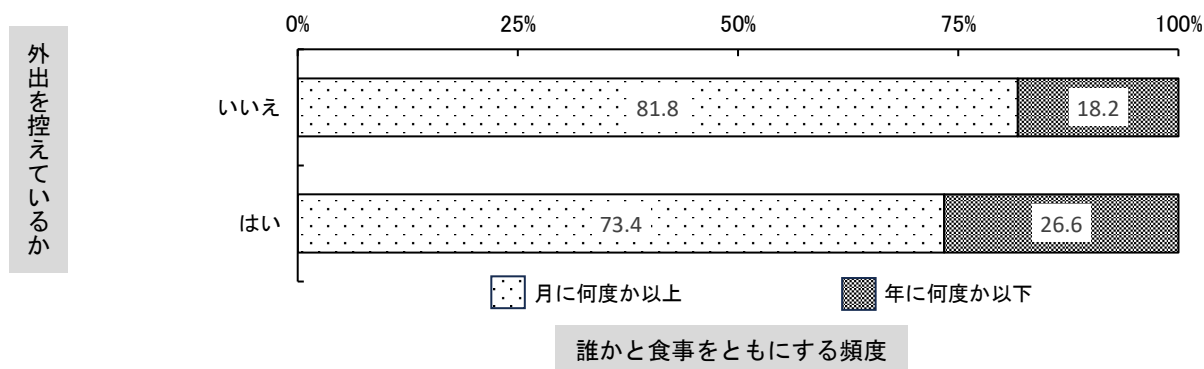
○外出を控えているかと誰かと食事をする頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、外出を控えているかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」の割合が高くなっています。

表2.16 問2(8) 外出を控えているか×問3(8) 誰かと食事をする頻度の分割表

		誰かと食事をとる頻度		
		月に何度か以上	年に何度か以下	合計
外出を控えているか	いいえ	5,392	1,202	6,594
	期待値	5,236.5	1,357.5	
	はい	1,906	690	2,596
	期待値	2,061.5	534.5	
	合計	7,298	1,892	9,190

p 値=0.000

図2.18 問2(8) 外出を控えているか×問3(8) 誰かと食事をする頻度



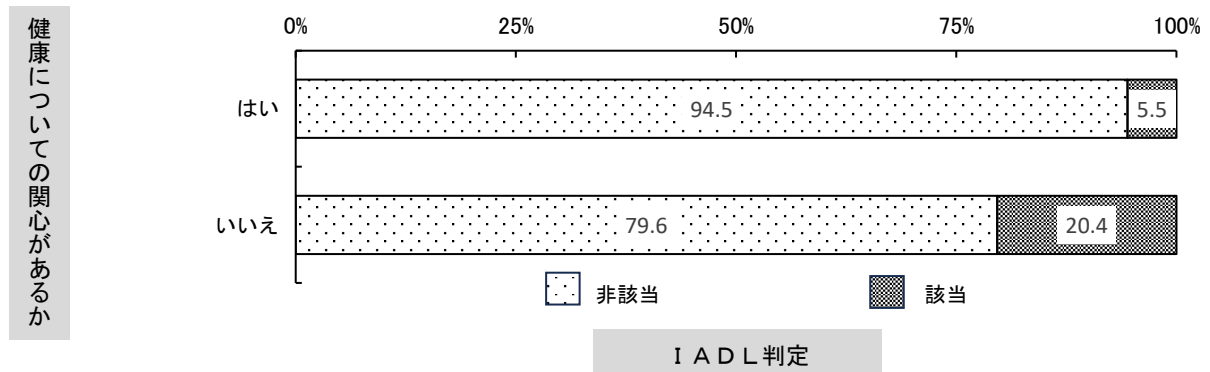
○健康への関心があるかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、健康についての関心があるかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.17 問4(12) 健康への関心があるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
かの健康 関心につ があるて	はい	7,909	464	8,373
	期待値	7,795.9	577.1	
	いいえ	669	171	840
	期待値	782.1	57.9	
	合計	8,578	635	9,213

p 値=0.000

図2.19 問4(12) 健康への関心があるか×IADL判定



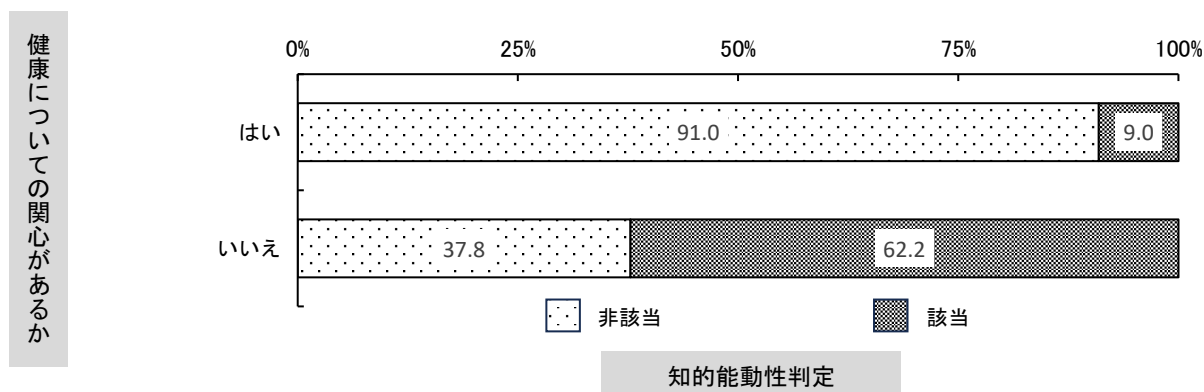
○健康への関心があるかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、健康についての関心があるかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.18 問4(12) 健康への関心があるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
健康 が あ る か の 関 心 に あ つ て い る か	はい	7,586	753	8,339
	期待値	7,179.1	1,159.9	
	いいえ	318	524	842
	期待値	724.9	117.1	
	合計	7,904	1,277	9,181

p 値=0.000

図2.20 問4(12) 健康への関心があるか×知的能動性判定



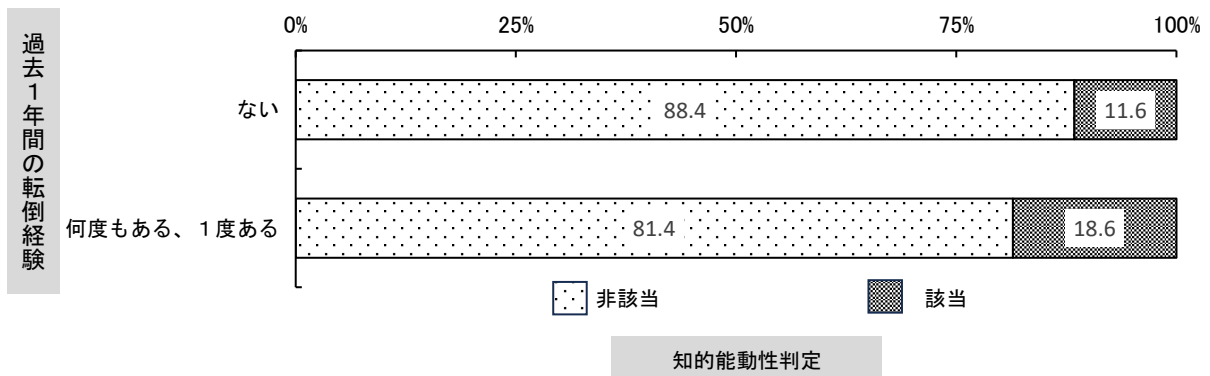
○転倒経験の有無と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、過去1年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1度ある」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.19 問2(4) 転倒経験の有無×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
過去1年間の転倒経験の	ない	5,443	713	6,156
	期待値	5,303.6	852.4	
	何度もある、1度ある	2,397	547	2,944
	期待値	2,536.4	407.6	
	合計	7,840	1,260	9,100

p 値=0.000

図2.21 問2(4) 転倒経験の有無×知的能動性判定



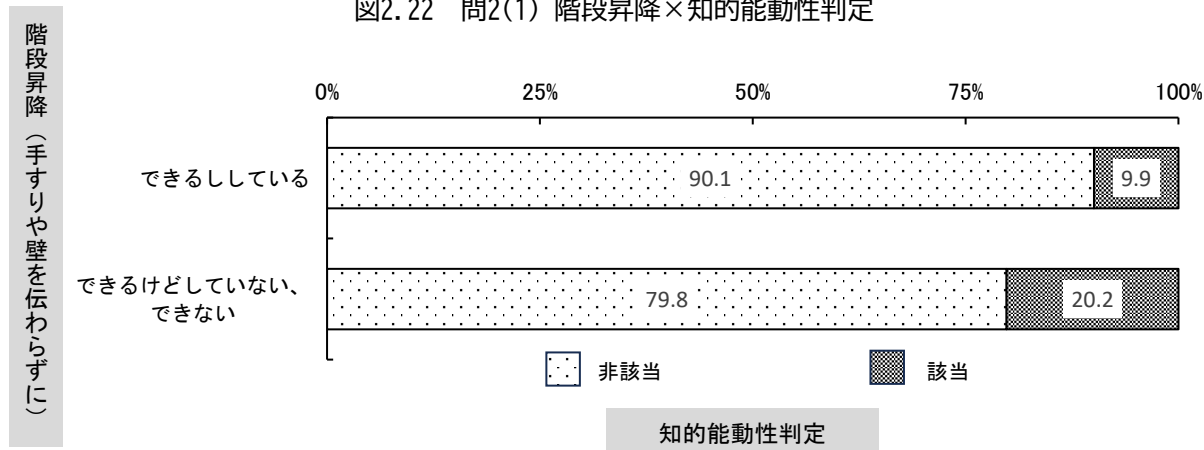
○階段昇降と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.20 問2(1) 階段昇降×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
階段昇降 (手すりや壁を伝 わらずに)	できるししている	5,051	557	5,608
	期待値	4,834.1	773.9	
	できるけどしていない、 できない	2,719	687	3,406
	期待値	2,935.9	470.1	
合計		7,770	1,244	9,014

p 値=0.000

図2.22 問2(1) 階段昇降×知的能動性判定





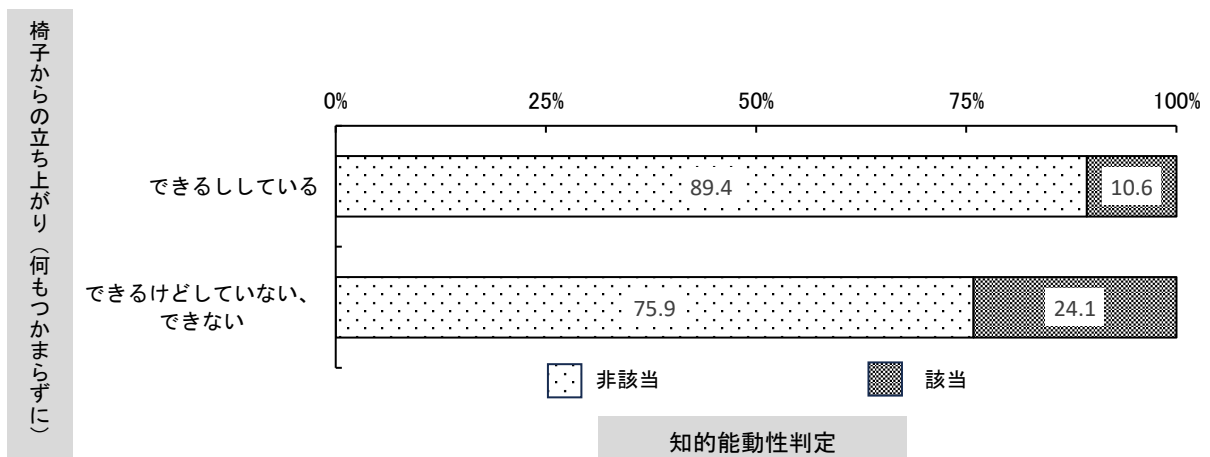
○椅子からの立ち上がりと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、椅子からの立ち上りを「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.21 問2(2) 椅子からの立ち上がり×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
椅子からの立ち上がり(何もつかまらずに)	できるししている	6,210	739	6,949
	期待値	5,993.5	955.5	
	できるけどしていない、できない	1,581	503	2,084
	期待値	1,797.5	286.5	
	合計	7,791	1,242	9,033

p 値=0.000

図2.23 問2(2) 椅子からの立ち上がり×知的能動性判定



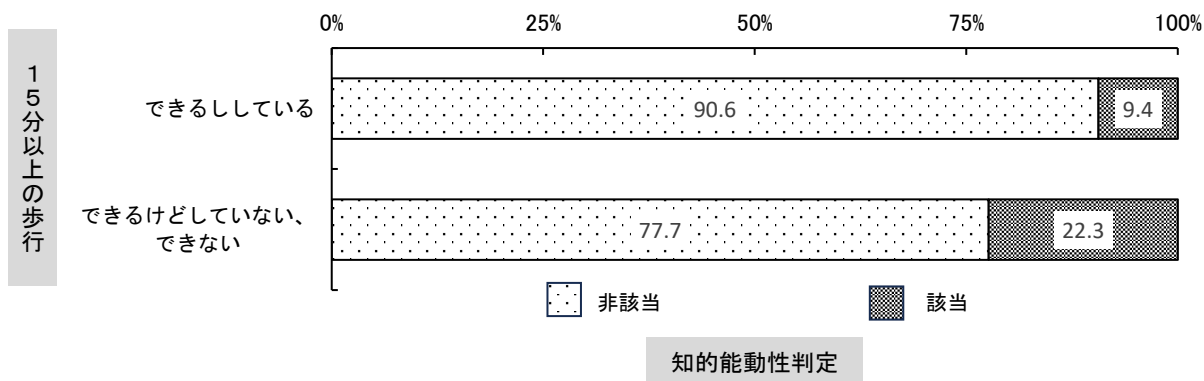
○15分以上の歩行と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.22 問2(3) 15分以上の歩行×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,427	562	5,989
	期待値	5,164.8	824.2	
	できるけどしていない、できない	2,375	683	3,058
	期待値	2,637.2	420.8	
	合計	7,802	1,245	9,047

p 値=0.000

図2.24 問2(3) 15分以上の歩行×知的能動性判定



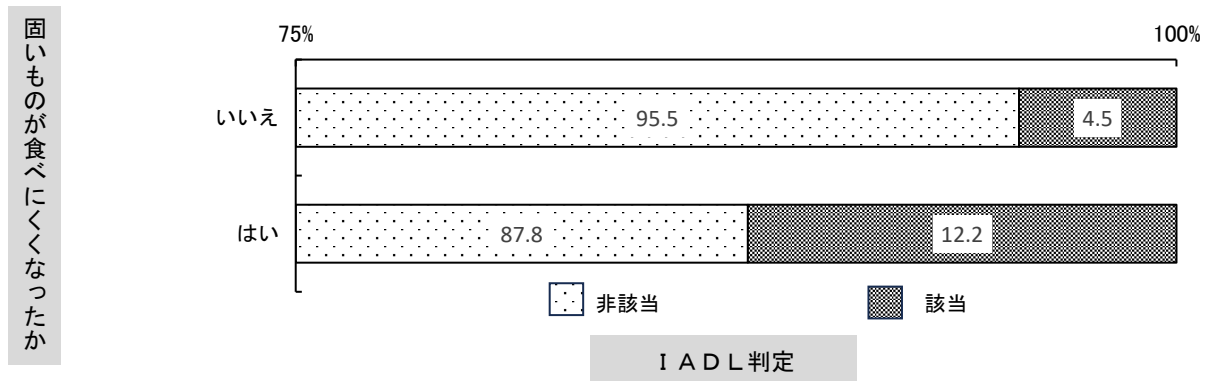
○固いものが食べにくくなったかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、固いものが食べにくくなったかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.23 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
に固く いも くも な の つ が た 食 べ か べ	いいえ	5,989	280	6,269
	期待値	5,836.9	432.1	
	はい	2,534	351	2,885
	期待値	2,686.1	198.9	
	合計	8,523	631	9,154

p 値=0.000

図2.25 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×IADL判定



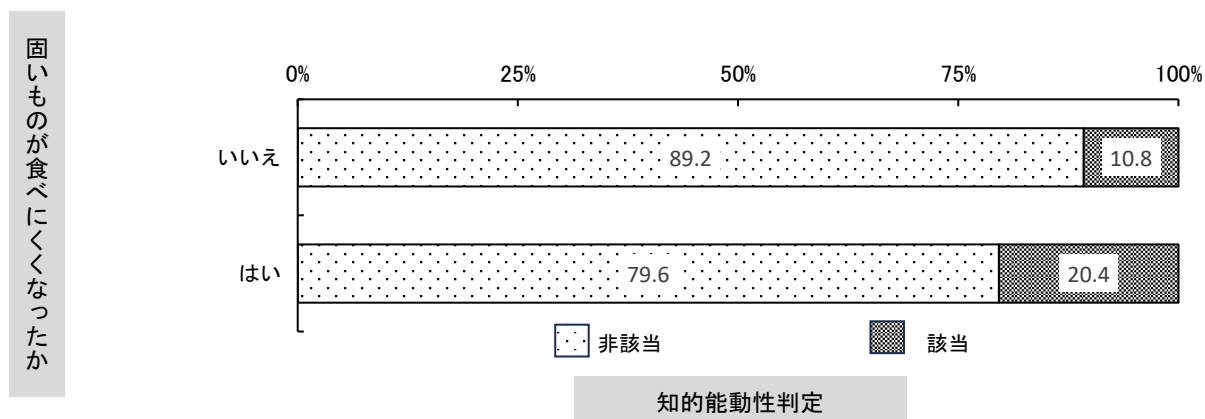
○固いものが食べにくくなったかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、固いものが食べにくくなったかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.24 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
に固く いも くな もの が つが た食 かべ	いいえ	5,539	668	6,207
	期待値	5,351.7	855.3	
	はい	2,264	579	2,843
	期待値	2,451.3	391.7	
	合計	7,803	1,247	9,050

p 値=0.000

図2.26 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×知的能動性判定



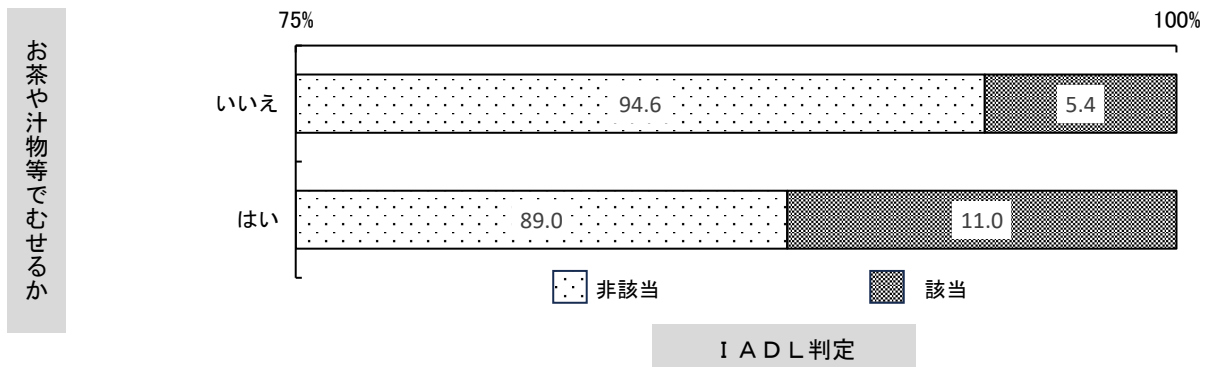
○お茶や汁物等でむせるかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、お茶や汁物等でむせるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.25 問3(3) お茶や汁物でむせるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
お茶や汁物等でむせるか	いいえ	6,382	367	6,749
	期待値	6,281.7	467.3	
	はい	2,167	269	2,436
	期待値	2,267.3	168.7	
合計		8,549	636	9,185

p 値=0.000

図2.27 問3(3) お茶や汁物でむせるか×IADL判定



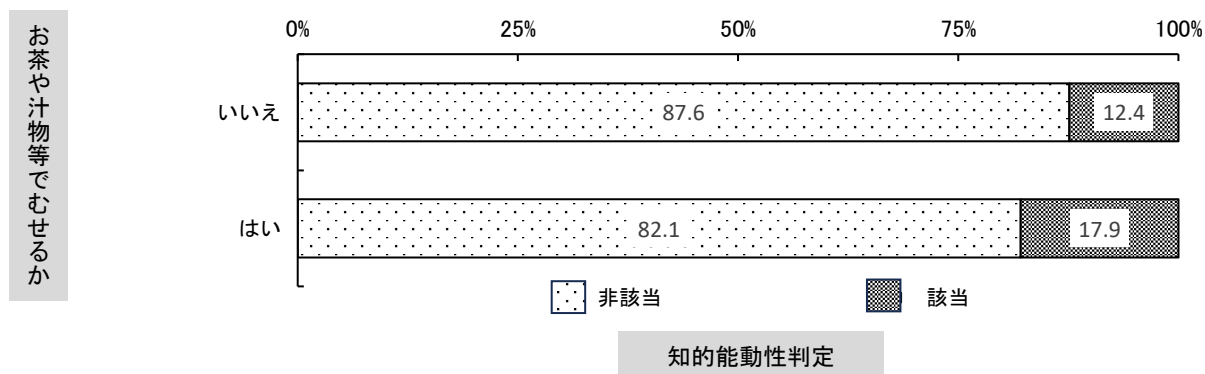
○お茶や汁物等でむせるかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、お茶や汁物等でむせるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.26 問3(3) お茶や汁物でむせるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
お茶や汁物等でむせるか	いいえ	5,851	826	6,677
	期待値	5,752.9	924.1	
	はい	1,974	431	2,405
	期待値	2,072.1	332.9	
	合計	7,825	1,257	9,082

p 値=0.000

図2.28 問3(3) お茶や汁物でむせるか×知的能動性判定



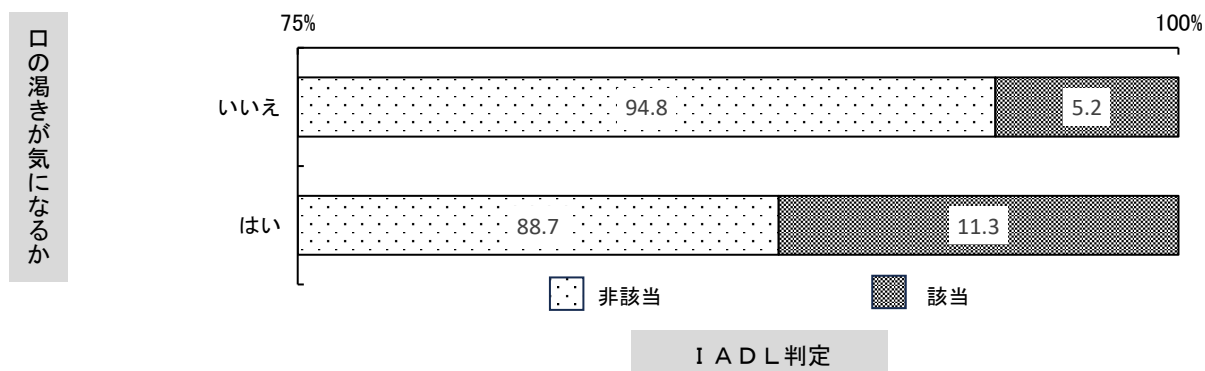
○口の渇きが気になるかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、口の渇きが気になるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.27 問3(4) 口の渇きが気になるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
口の渇きが 気になるか	いいえ	6,371	349	6,720
	期待値	6,261.4	458.6	
	はい	2,148	275	2,423
	期待値	2,257.6	165.4	
合計		8,519	624	9,143

p 値=0.000

図2.29 問3(4) 口の渇きが気になるか×IADL判定



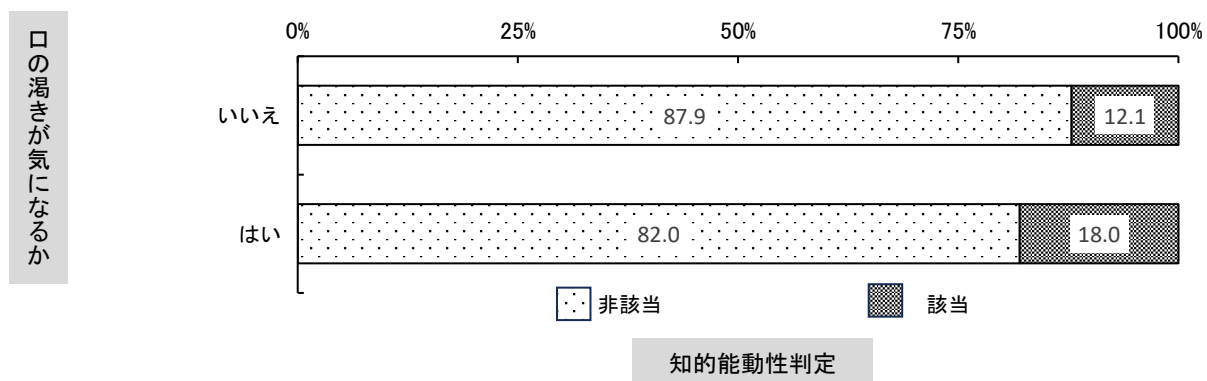
○口の渴きが気になるかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、口の渴きが気になるかで「いいえ」のグループは、「はい」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.28 問3(4) 口の渴きが気になるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
口の にの 渴き が 気 に な る か	いいえ	5,851	808	6,659
	期待値	5,747.6	911.4	
	はい	1,956	430	2,386
	期待値	2,059.4	326.6	
	合計	7,807	1,238	9,045

p 値=0.000

図2.30 問3(4) 口の渴きが気になるか×知的能動性判定





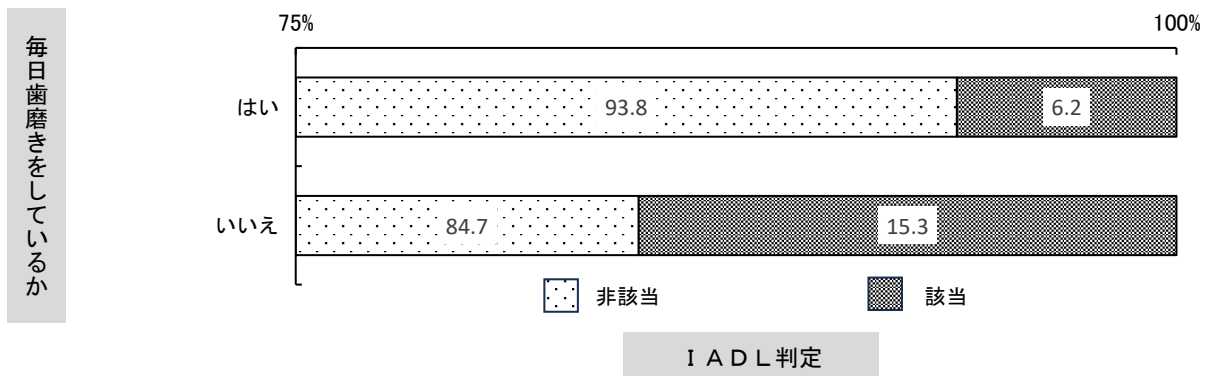
○毎日歯磨きをしているかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、毎日歯磨きをしているかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.29 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
毎日歯磨きをしているか	はい	7,990	531	8,521
	期待値	7,936.1	584.9	
	いいえ	544	98	642
	期待値	597.9	44.1	
	合計	8,534	629	9,163

p 値=0.000

図2.31 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×IADL判定



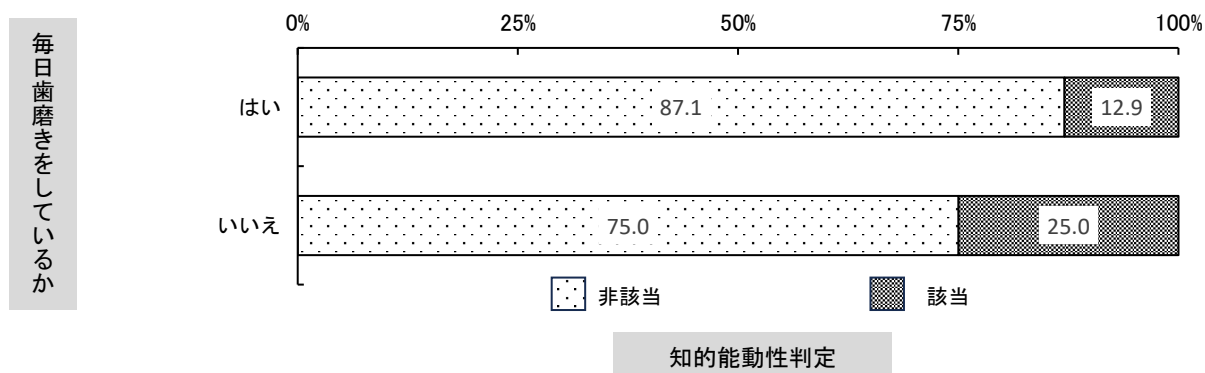
○毎日歯磨きをしているかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、毎日歯磨きをしているかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.30 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
毎日歯磨きをしているか	はい	7,343	1,089	8,432
	期待値	7,272.9	1,159.1	
	いいえ	469	156	625
	期待値	539.1	85.9	
	合計	7,812	1,245	9,057

p値=0.000

図2.32 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×知的能動性判定



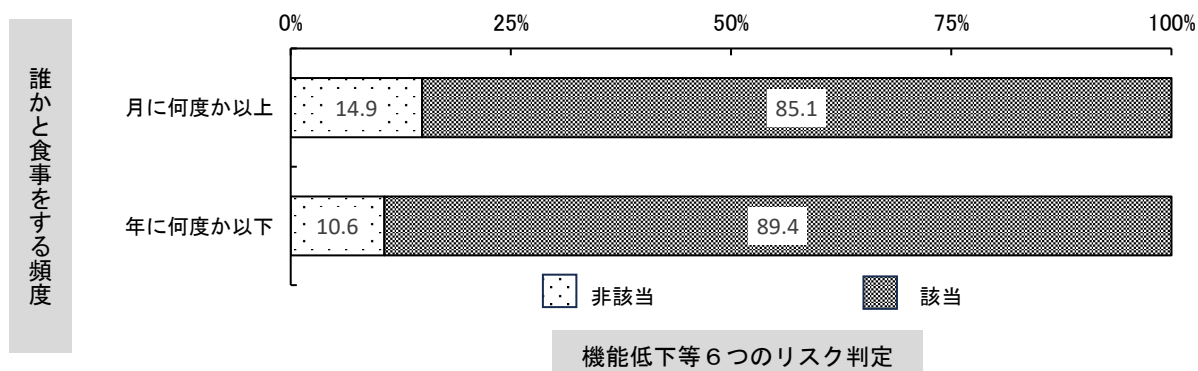
○誰かと食事をする頻度と介護予防リスク判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」のグループは、「年に何度か以下」のグループより、介護予防リスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.31 問3(8) 誰かと食事をする頻度×介護予防リスク判定の分割表

		機能低下等6つのリスク判定		
		非該当	該当	合計
誰かと食事をする頻度	月に何度か以上	1,076	6,135	7,211
	期待値	1,012.1	6,198.9	
	年に何度か以下	200	1,680	1,880
	期待値	263.9	1,616.1	
合計		1,276	7,815	9,091

p値=0.000

図2.33 問3(8) 誰かと食事をする頻度×介護予防リスク判定



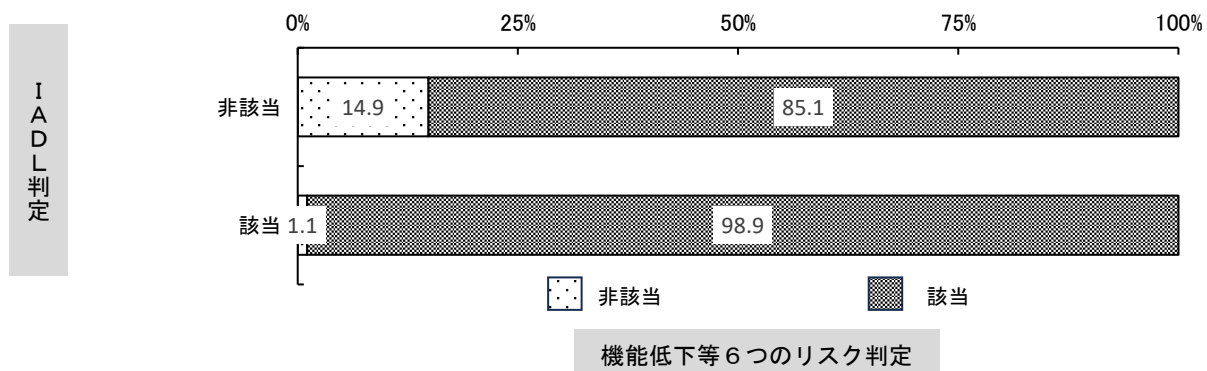
○ IADL判定と介護予防リスク判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、IADL判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、介護予防リスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.32 IADL判定×介護予防リスク判定の分割表

		機能低下等 6 つのリスク判定		
		非該当	該当	合計
I A D L 判 定	非該当	1,257	7,203	8,460
	期待値	1,174.6	7,285.4	
	該当	7	637	644
	期待値	89.4	554.6	
	合計	1,264	7,840	9,104

p 値=0.000

図2.34 IADL判定×介護予防リスク判定



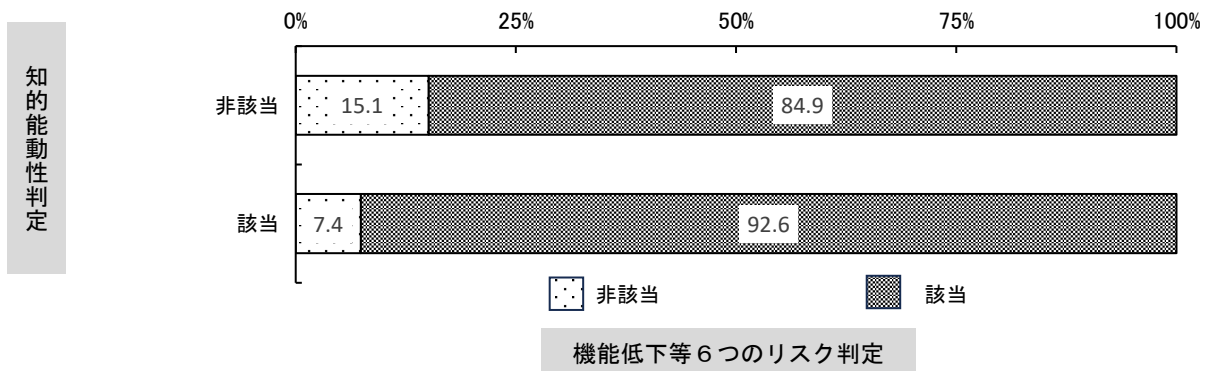
○知的能動性判定と介護予防リスク判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、知的能動性判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、介護予防リスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.33 知的能動性判定×介護予防リスク判定の分割表

		機能低下等6つのリスク判定		
		非該当	該当	合計
知的能動性判定	非該当	1,169	6,575	7,744
	期待値	1,085.8	6,658.2	
	該当	93	1,164	1,257
	期待値	176.2	1,080.8	
	合計	1,262	7,739	9,001

p 値=0.000

図2.35 知的能動性判定×介護予防リスク判定



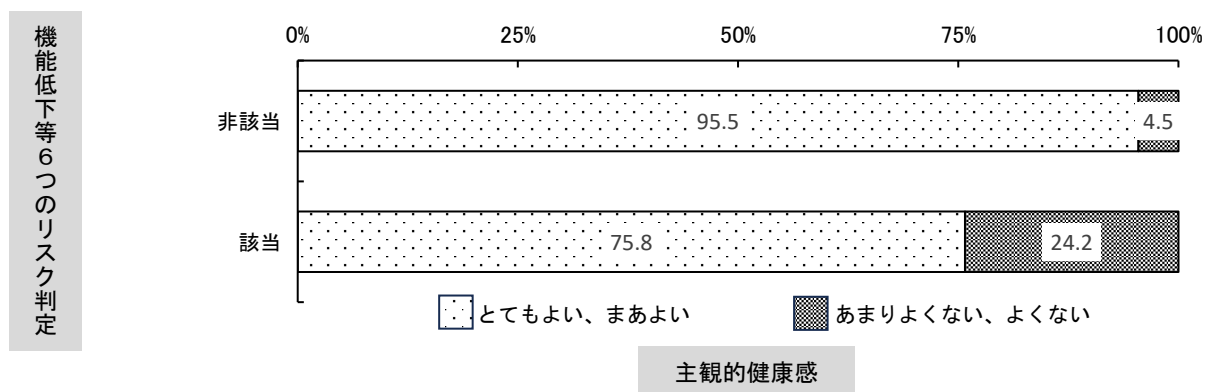
○介護予防リスク判定と主観的健康感の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、介護予防リスク判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、主観的健康感で「とてもよい、まあよい」の割合が高くなっています。

表2.34 介護予防リスク判定×問7(1) 主観的健康感の分割表

		主観的健康感		
		とてもよい、まあよい	あまりよくない、よくない	合計
の機能低下等6つのリスク判定	非該当	1,220	58	1,278
	期待値	1,003.8	274.2	
	該当	5,918	1,892	7,810
	期待値	6,134.2	1,675.8	
	合計	7,138	1,950	9,088

p 値=0.000

図2.36 介護予防リスク判定×問7(1) 主観的健康感



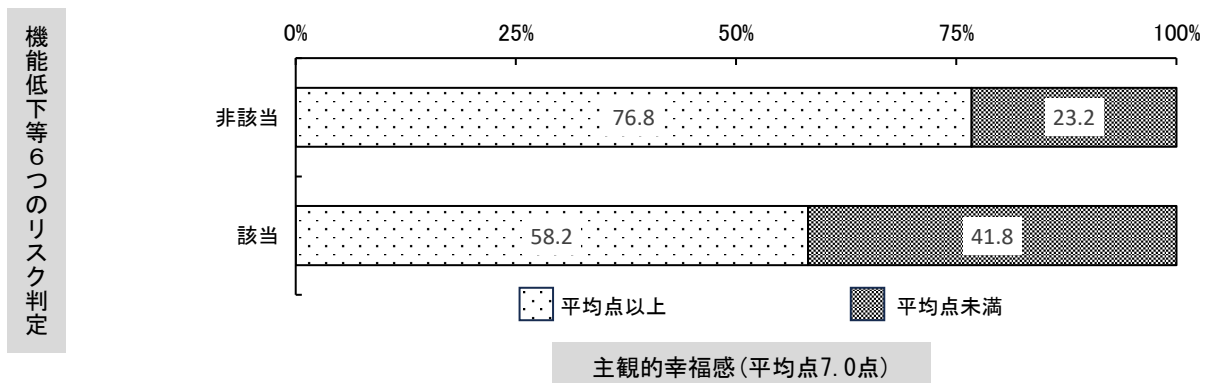
○介護予防リスク判定と主観的幸福感の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、介護予防リスク判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、主観的幸福感で「平均点 (7.0 点) 以上」の割合が高くなっています。

表2.35 介護予防リスク判定×問7(2) 主観的幸福感の分割表

		主観的幸福感(平均点7.0点)		
		平均点以上	平均点未満	合計
の機能 リスク 低下等 6つ	非該当	974	295	1,269
	期待値	771.5	497.5	
	該当	4,485	3,225	7,710
	期待値	4,687.5	3,022.5	
	合計	5,459	3,520	8,979

p 値=0.000

図2.37 介護予防リスク判定×問7(2) 主観的幸福感



## 2 要介護者等のビジョンに関連した分析

### (1) 「本人」の在宅生活の継続性の確保

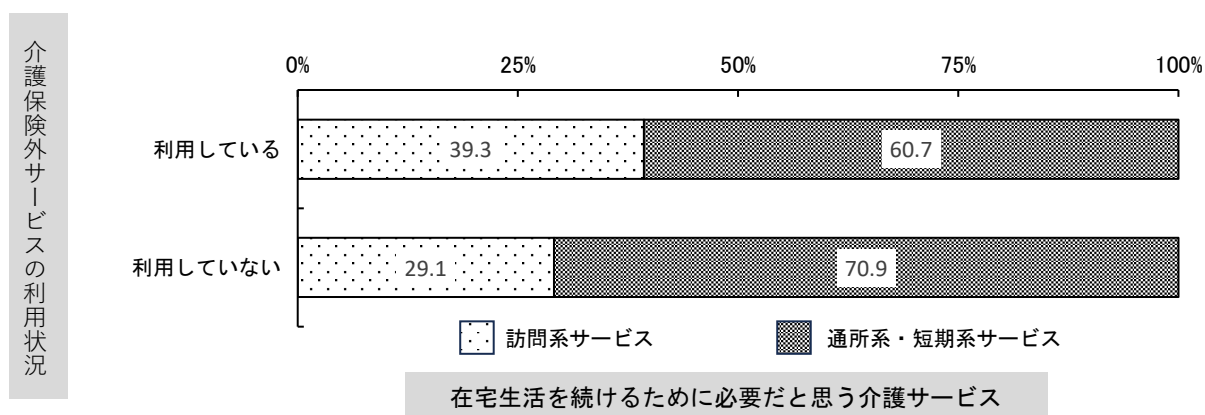
○介護保険サービス以外のサービスを利用の有無と在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、介護保険サービス以外のサービスを利用の有無で「利用している」グループは、「利用していない」グループより、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」の割合が高くなっています。

表2.36 [問8] 介護保険サービス以外のサービスを利用の有無  
×[問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表

		在宅生活を続けるために必要だと思う介護サービス		
		訪問系サービス	通所系・短期系サービス	合計
介護保険外サービスの利用状況	利用している	340	525	865
	期待値	280.7	584.3	
	利用していない	511	1,246	1,757
	期待値	570.3	1186.7	
	合計	851	1,771	2,622

p 値=0.000

図2.38 [問8] 介護保険サービス以外のサービスを利用の有無  
×[問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス





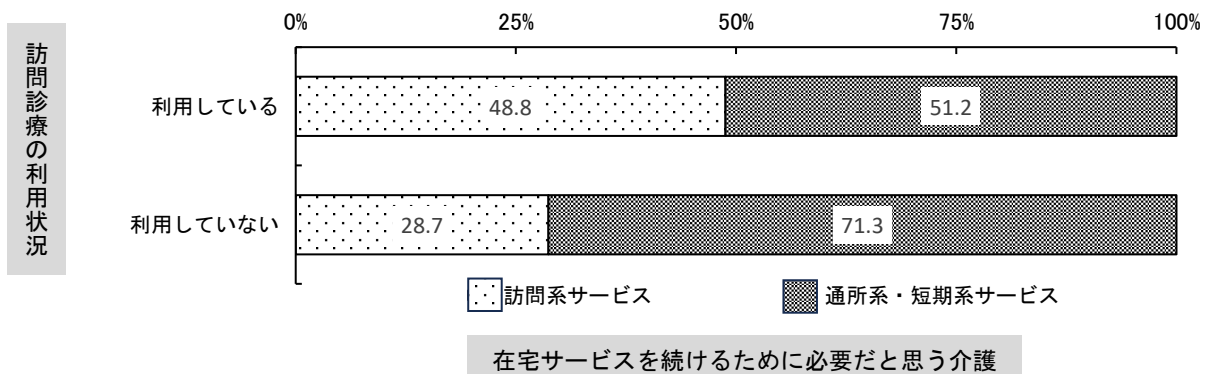
○訪問診療の利用状況と在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、訪問診療の利用状況で「利用している」グループは、「利用していない」グループより、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」の割合が高くなっています。

表2.37 [問12] 訪問診療の利用状況  
× [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表

		在宅生活を続けるために必要だと思う介護サービス		
		訪問系サービス	通所系・短期系サービス	合計
訪問診療の 利用状況	利用している	264	277	541
	期待値	175.8	365.2	
	利用していない	671	1,666	2,337
	期待値	759.2	1577.8	
	合計	935	1,943	2,878

p 値=0.000

図2.39 [問12] 訪問診療の利用状況× [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス



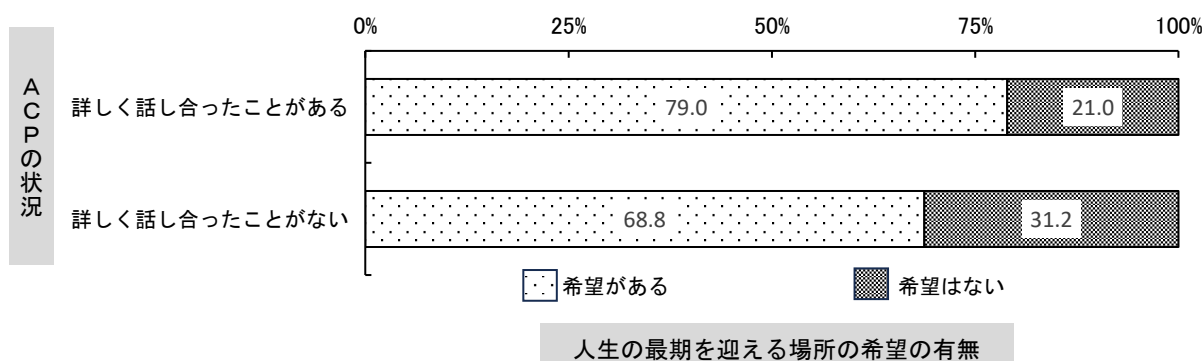
○ACP の状況と人生の最期を迎える場所の希望の有無の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、ACP の状況で「詳しく話し合ったことがある」グループは、「詳しく話し合ったことがない」グループより、人生の最期を迎える場所の希望の有無で「希望がある」の割合が高くなっています。

表2.38 [問17] ACPの状況×[問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無の分割表

		人生の最期を迎える場所の希望の有無		
		希望がある	希望はない	合計
ACP の 状 況	詳しく話し合ったことがある	259	69	328
	期待値	228.6	99.4	
	詳しく話し合ったことがない	2,253	1,024	3,277
	期待値	2,283.4	993.6	
	合計	2,512	1,093	3,605

p 値=0.000

図2.40 [問17] ACPの状況×[問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無



ACP：アドバンス・ケア・プランニングの略で、「人生会議」ともいう。もしものときのために本人が大切にしていることや本人が望む医療や介護について自ら考え、また、周囲の信頼する人たちと話し合うこと。

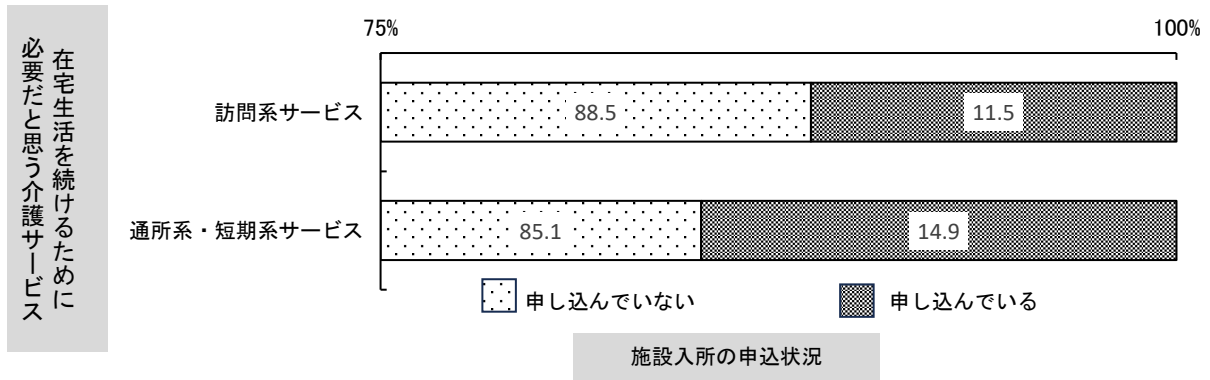
○在宅生活を続けるために必要だと思うサービスと施設入所の申込状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.013)、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」のグループは、「通所系・短期系サービス」のグループより、施設入所の申込状況で「申し込んでいない」の割合が高くなっています。

表2.39 [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス  
×[問10] 施設入所の申込状況の分割表

		施設入所の申込状況		
		申し込んでいない	申し込んでいる	合計
在宅生活を続けるために必要だと思うサービス	訪問系サービス	817	106	923
	期待値	795.7	127.3	
	通所系・短期系サービス	1,584	278	1,862
	期待値	1605.3	256.7	
	合計	2,401	384	2,785

p 値=0.013

図2.41 [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス×[問10] 施設入所の申込状況



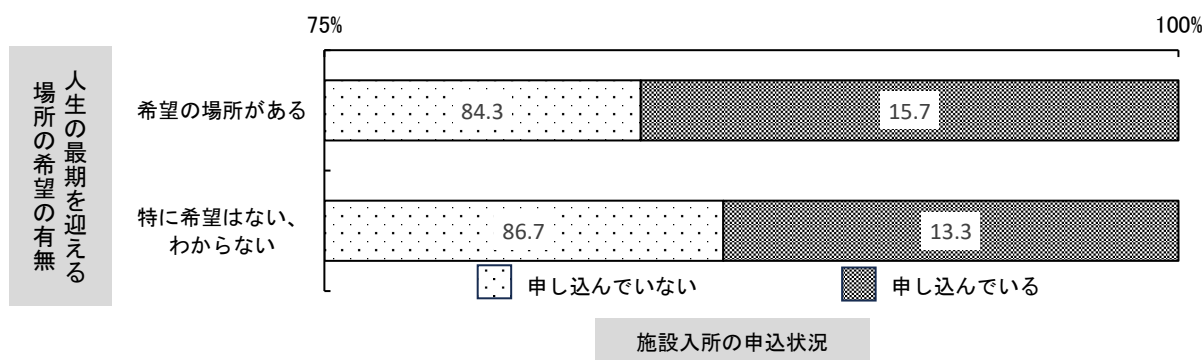
○令和2年の前回調査では、人生の最期を迎える場所の希望の有無と施設入所の申込状況の分割表をみると有意差がみられましたが（p 値=0.029）、今回調査では、有意差がみられませんでした（p 値=0.069>0.05）。

表 2.40 [問 18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無×[問 10] 施設入所の申込状況の分割表【参考】

		施設入所の申込状況		
		申し込んでいない	申し込んでいる	合計
のえ 有 無 場 所 の 最 期 を 迎 え る 希 望	希望の場所がある	1,986	371	2,357
	期待値	2,003.4	353.6	
	特に希望はない、 わからない	898	138	1,036
	期待値	880.6	155.4	
合計		2,884	509	3,393

p 値=0.069

図2.42 [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無×[問10] 施設入所の申込状況【参考】



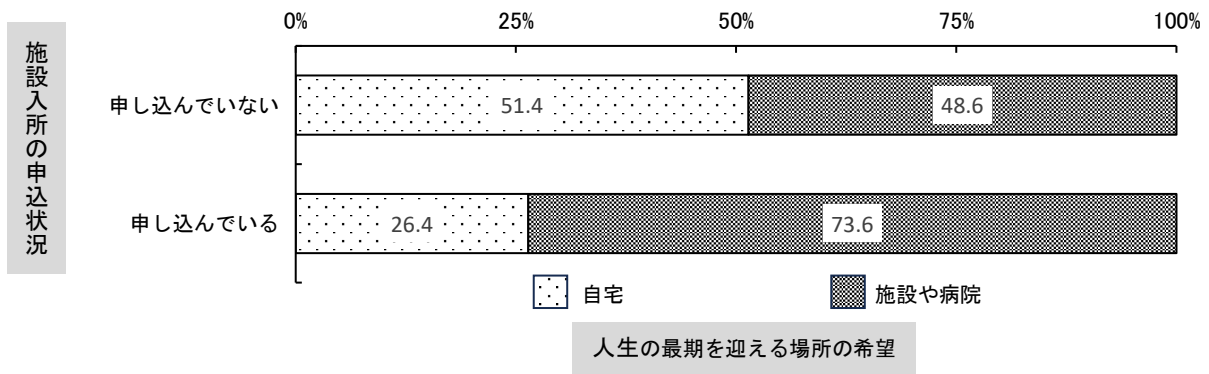
○施設入所の申込状況と人生の最期を迎える場所の希望の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、施設入所の申込状況で「申し込んでいない」グループは、「申し込んでいる」グループより、人生の最期を迎える場所の希望で「自宅」の割合が高くなっています。

表2.41 [問10] 施設入所の申込状況×[問18] 人生の最期を迎える場所の希望の分割表

		人生の最期を迎える場所の希望		
		自宅	施設や病院	合計
施設入所の 申込状況	申し込んでいない	1,021	965	1,986
	期待値	942.9	1,043.1	
	申し込んでいる	98	273	371
	期待値	176.1	194.9	
	合計	1,119	1,238	2,357

p 値=0.000

図2.43 [問10] 施設入所の申込状況×[問18] 人生の最期を迎える場所の希望



## (2) 家族等「介護者」の就労継続

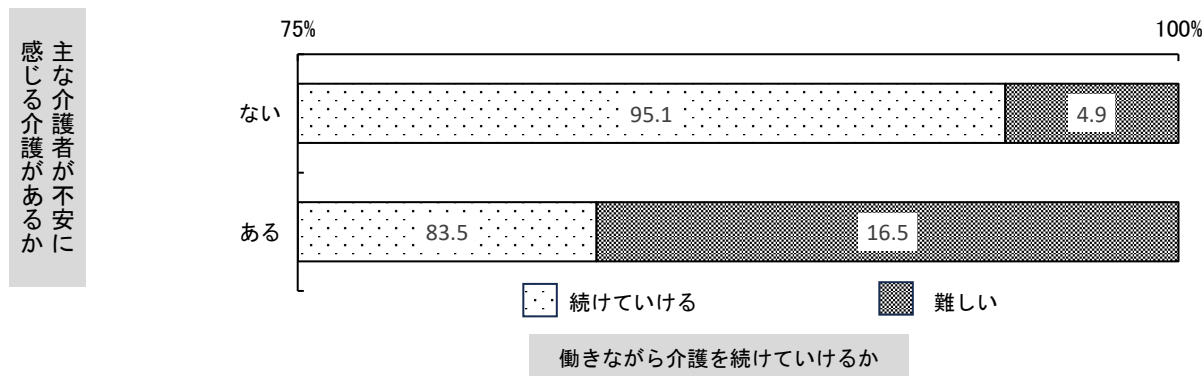
○不安を感じる介護の有無と今後も仕事と介護を両立できるかの分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.016)、主な介護者が不安を感じる介護があるかで「ない」グループは、「ある」グループより、働きながら介護を続けていけるかで「続けていける」の割合が高くなっています。

表2.42 [問15] 不安を感じる介護の有無×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるかの分割表

		働きながら介護を続けていけるか		
		続けていける	難しい	合計
主な介護者が不安を感じるか	ない	58	3	61
	期待値	51.3	9.7	
	ある	814	161	975
	期待値	820.7	154.3	
	合計	872	164	1,036

p 値=0.016

図2.44 [問15] 不安を感じる介護の有無×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか



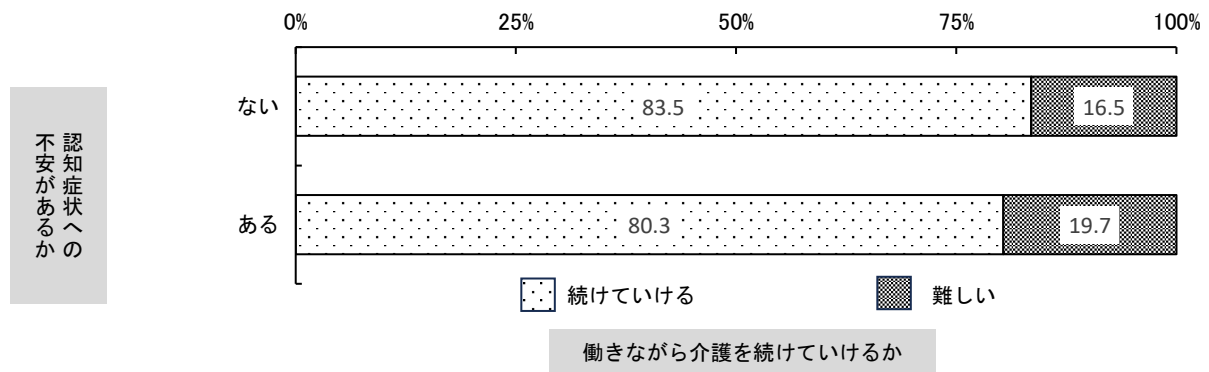
○令和2年の前回調査では、認知症状に対する不安と今後も仕事と介護を両立できるかの分割表をみると有意差がみられましたが (p 値=0.005)、今回調査では、有意差がみられませんでした (p 値=0.289>0.05)。

表2.43 [問15] 認知症状に対する不安×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるかの分割表  
【参考】

		働きながら介護を続けていけるか		
		続けていける	難しい	合計
不 認 知 症 状 が あ る へ か の 不 安	ない	223	44	267
	期待値	217.7	49.3	
	ある	368	90	458
	期待値	373.3	84.7	
合計		591	134	725

p 値=0.289

図2.45 [問15] 認知症状に対する不安×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか【参考】



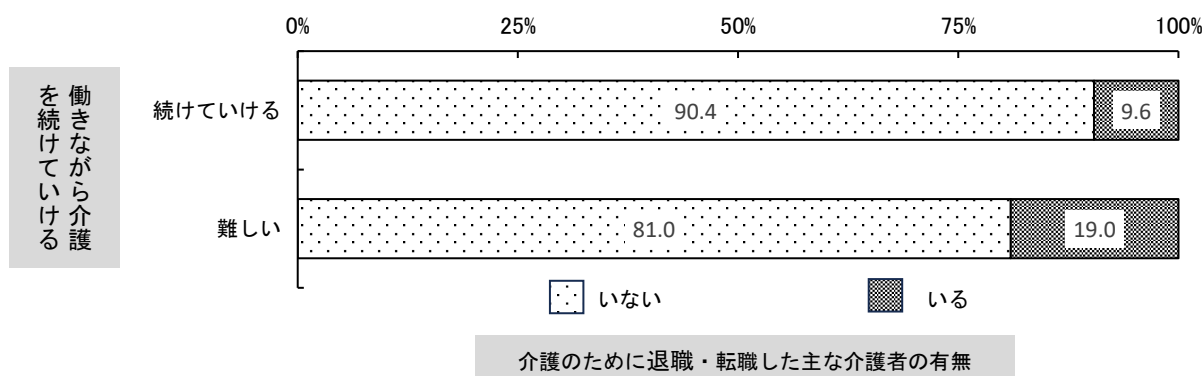
○今後も仕事と介護を両立できるかと介護離職・転職の状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.001)、働きながら介護を続けていけるかで「続けていける」グループは、「難しい」グループより、介護のために離職・転職した主な介護者の有無で「いない」の割合が高くなっています。

表2.44 [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか×[問7] 介護離職・転職の状況の分割表

		介護のために退職・転職した主な介護者の有無		
		いない	いる	合計
働 き な が ら 介 護 を 続 け て い け る か	続けていける	659	70	729
	期待値	647.4	81.6	
	難しい	119	28	147
	期待値	130.6	16.4	
合計		778	98	876

p 値=0.001

図2.46 [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか×[問7] 介護離職・転職の状況





(3) 「サービス提供体制」の確保

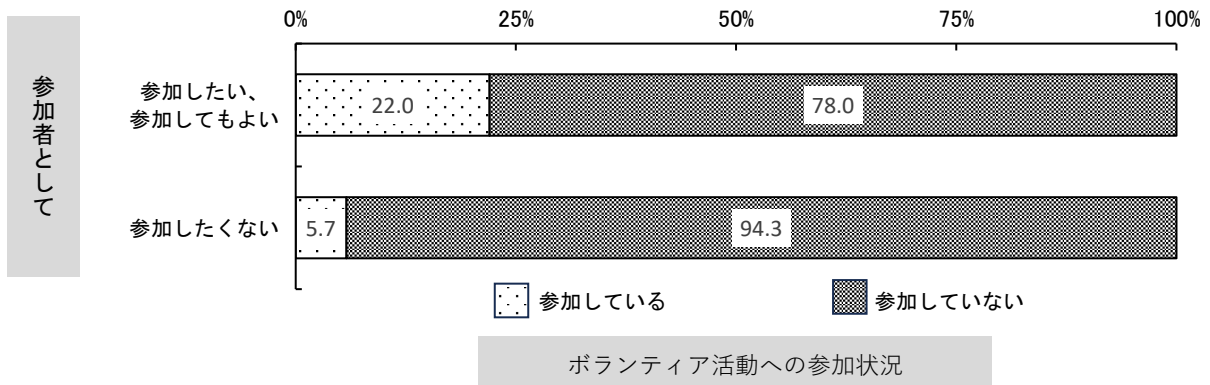
○参加者としての社会参加意向と社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.000）、参加者として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、ボランティア活動への参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.45 問5(2) 参加者としての社会参加意向  
×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表

		ボランティア活動への参加状況		
		参加している	参加していない	合計
参加者として	参加したい、参加してもよい	848	3,003	3,851
	期待値	595.8	3,255.2	
	参加したくない	149	2,444	2,593
	期待値	401.2	2,191.8	
	合計	997	5,447	6,444

p 値=0.000

図2.47 問5(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加



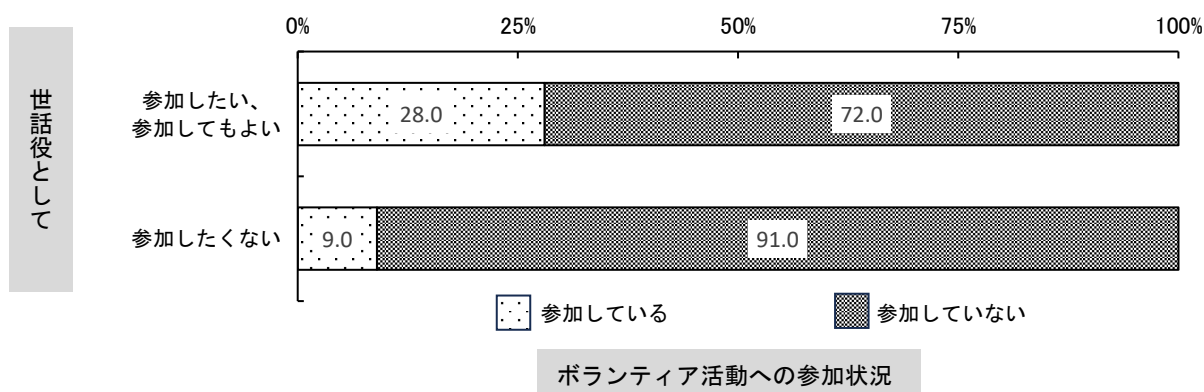
○世話役としての社会参加意向と社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.000）、世話役として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、ボランティア活動への参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.46 問5(3) 世話役としての社会参加意向  
×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表

		ボランティア活動への参加状況		
		参加している	参加していない	合計
世話役として	参加したい、参加してもよい	580	1,488	2,068
	期待値	317.6	1,750.4	
	参加したくない	373	3,764	4,137
	期待値	635.4	3,501.6	
	合計	953	5,252	6,205

p 値=0.000

図2.48 問5(3) 世話役としての社会参加意向×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加



○社会参加活動（ボランティア）への参加と地域で支援できることの分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.000）、ボランティア活動への参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、地域で支援できることが「ある」の割合が高くなっています。

表2.47 問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加×問5(4) 地域で支援できることの分割表

		地域で支援できること		
		ある	ない	合計
ボランティアへの参加状況	参加している	1,070	129	1,199
	期待値	778.8	420.2	
	参加していない	3,241	2,197	5,438
	期待値	3,532.2	1,905.8	
	合計	4,311	2,326	6,637

p 値=0.000

図2.49 問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加×問5(4) 地域で支援できること

